

リンゴ心かび病の感染生態

研究のねらい

‘スターキングデリシャス’に代わる主力品種として期待されている‘北斗’は心かび病の発生が多い。そこで、本病の防除対策を確立するために、これに關与する病原菌の種類や果実への侵入時期など、感染生態を解明する。

研究の成果

心かび病は病原菌の繁殖部位によって子室かび症状と心腐れ症状に区別され、心腐れ症状はさらに乾腐型と軟腐型に分類された。子室かび症状と乾腐型の主要病原菌は *Fusarium* 属菌と *Alternaria* 属菌であり、軟腐型の主要病原菌は *Fusarium* 属菌であった。

心かび病菌のがく筒への感染は落花20日後頃の早い時期に始まることが明らかとなった。よって、防除重点時期は、病原菌のがく片などに定着し始める開花期～落花10日後頃と推定された。しかし、十分な防除効果を得られる殺菌剤がなかったため、薬剤防除は非常に困難であることが判明した。



樹上で発病した果実



子室かび症状

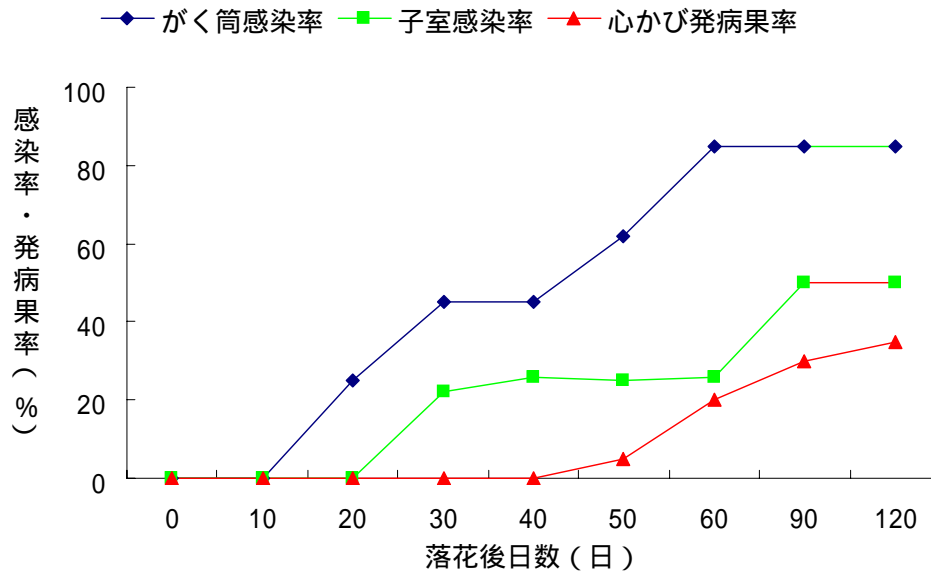


心腐れ症状

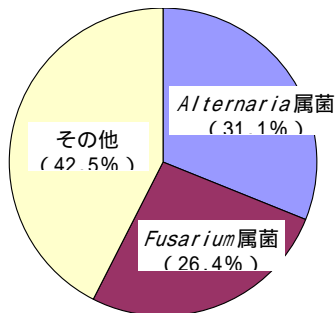


心腐れ乾腐型(左)と心腐れ軟腐型(右)

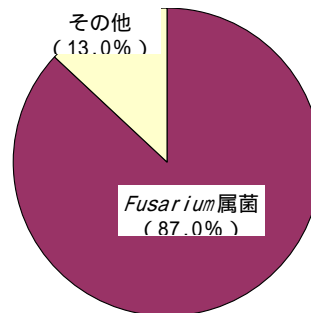
主要な試験データ



第1図 落花後日数と感染率・発病果率



第2図 乾腐型腐敗より分離された菌の種類



第3図 軟腐型腐敗より分離された菌の種類

発表資料

1. 病虫肥料部 (1999). リンゴ心かび病の感染生態. 平成11年度指導奨励事項・指導参考資料: 124 - 125.
2. 倉館公子ら (1996). リンゴ北斗における心かび病菌の侵入時期. 日植病報 62: 602.
3. 倉館公子ら (1998). リンゴ心かび病の心腐れ症状から分離される糸状菌とその病原性. 日植病報 64: 430.